

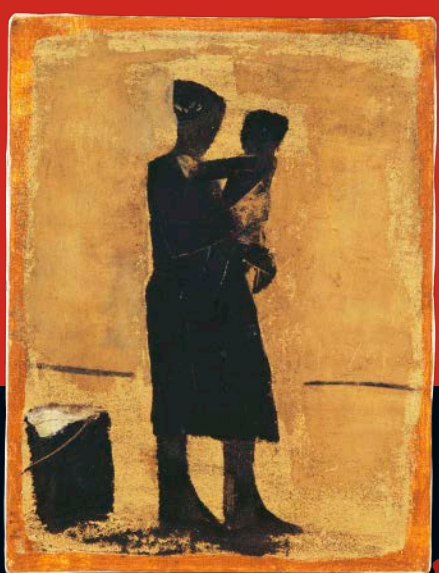
香月泰男展

シベリアの記憶

家族への情愛



「朝陽」1964



「母と子」1968



「父と子」1969

平和祈念交流展

前期 9月4日(火) > 30日(日) 後期 10月2日(火) > 28日(日)

開館時間:9:30~17:30(入館は17:00まで) 休館日:9/10、18、25、10/1、9、15、22 ※前期・後期で一部展示替えを行います。

平和祈念展示資料館(総務省委託) 入館無料  
新宿住友ビル33階(新宿区西新宿2-6-1) Tel:03-5323-8709 <http://www.heiwakinen.jp>

特別協力  
香月泰男美術館(長門市)

# 香月泰男展 シベリアの記憶 家族への情愛

平和祈念展示資料館では、第二次世界大戦における、兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦について、国民の理解を深めるための活動の一つとして、他館と連携した交流展を行っています。この度は、長門市の香月泰男美術館と連携し、美術館が所蔵する、香月の制作したシベリア抑留の絵画と家族の愛情あふれる情景を描いた作品を展示します。

香月泰男は1945(昭和20)年にシベリアに抑留され、1947(昭和22)年に復員しました。帰国後、約30年にわたって〈シベリア・シリーズ〉を描き続けました。このシリーズは、多くの抑留体験者の絵画を生み出す契機となり、その後、香月の〈シベリア・シリーズ〉全作品は山口県立美術館に所蔵されることになります。



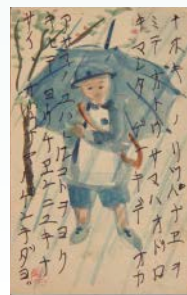
「避難民」1969



香月は、シベリア関連の作品のほかに、家族を題材にした作品も数多く発表しています。

「深く静かに流れるアムール川を眺めていると、これが運命とかいう流れであるかと思っただけだ」と書いたように、シベリア抑留は香月にとって、天から与えられ、自らに課したテーマといえますが、同時に「わたしは国より、家族のほうが大切であると思ふ」と述べているように、家族への愛情は、香月が自ら望み描きたかった最大のモチーフであったと思われます。

本展は、香月泰男美術館のご協力により、ほとんど館外へ出ることのなかった香月のシベリア抑留関連の作品と、家族の情愛を描いた作品を紹介し、あわせて香月が入隊以来手放すことのなかった絵具箱やハイラルから出した軍事郵便も展示します。



「ハイラル通信」



香月泰男 1911.10.25 - 1974.3.8

Yasuo Kazuki

戦後日本美術史を代表する洋画家。1911(明治44)年、山口県大津郡三隅村(現・長門市三隅)に生まれる。シベリア抑留の体験をもとにした57点の油彩からなる〈シベリア・シリーズ〉が代表作。生まれ育った三隅の地で亡くなる直前まで創作活動を行った。ふるさとでの自然や愛する家族を題材とした絵画や、廃材を利用して作った「おもちゃ」と呼ばれるオブジェも人気を博す。



香月泰男美術館

香月泰男美術館

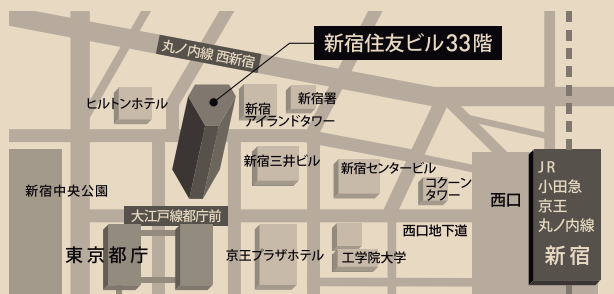
KAZUKI YASUO MUSEUM IN MISUMI

1993(平成5)年、香月家からの寄贈を受け、香月泰男が生まれ育った山口県長門市三隅に開館した美術館。初期から晩年までの油彩画、香月独特の墨を使った素描画、「おもちゃ」と呼ばれる手のひらサイズのオブジェなど、多様な作品を所蔵している。

〒759-3802 山口県長門市三隅中226番地  
T.0837-43-2500 / F.0837-43-2577

## 企画関連イベント (参加無料・予約不要)

- **ギャラリートーク 丸尾いと(香月泰男美術館学芸員)**  
9/22(土)14:00~14:30(約30分)
- **講演会「香月のシベリアと家族」**  
講師:丸尾いと(香月泰男美術館学芸員)  
9/23(日・祝)14:00~15:00(約60分)
- **ギャラリートーク 当館学芸員**  
10/7(日)13:00~13:30(約30分)



- 都営大江戸線(都庁前)駅より徒歩約3分
- 東京メトロ丸ノ内線(西新宿)駅より徒歩約7分
- JR線、小田急線、京王線(新宿)駅西口より徒歩約10分